

# 社会主義国における資本主義経済の導入とその成果について

筑波大学 総合学域群第一類 内田 隆秀

## 1. 問題関心：低下した共産思想の権威

### \* 目的

中国やキューバといった社会主義国家でありながらも市場経済を取り入れてきた国家における、ここ数十年の経済的成長とその成長戦略を明らかにする。加えて、近年急速に力を伸ばしてきている中国に焦点を当て、その動向と諸外国の構想との衝突について言及する。

### \* 背景

“高度なグローバル社会”や“新自由主義”といったワードがトレンドとなり、市場経済に大きく依拠した社会システムを基盤に持つ現代社会。かつて資本主義と並ぶ有力な体制と見なされていた**社会主義**の評価は地に落ち、現在では社会主義体制をとる国家は激減した。ソ連による援助があって初めて成立していた共産主義陣営の国々は**ソ連崩壊**とともに次々に**民主化**し、着実に経済成長を続けている。では、現在もなお社会主義体制を貫く国家における経済成長戦略とは何なのか（キューバ）。**市場経済の導入と体制の維持**による効果はどう表れているのだろうか（中国）。

### \* 先行研究

・ 共産思想という空想を現実へと変えていくその過程を、マルクス、レーニン、スターリン、毛沢東、鄧小平に見られる社会主義像をもとに確認する。（2018、中兼と津次）  
・ 中国の台頭の足掛かりとなった「**一帯一路**」戦略と、日米の「**インド太平洋**」戦略の衝突。そして国際経済秩序の変容をイデオロギー対立の視点から確認する。（2017、貴家勝宏）

### \* 検討事項

- ① 社会主義国家「**中華人民共和国**」と「**キューバ共和国**」における経済成長率と成長戦略の施行時期を照らし合わせ、その成果を明らかにする。
- ② 中国に焦点を当て、今後中国による**アジア市場の独占が拡大**していくと予想した際の、中国経済の成長予測と諸外国の動きについて言及する。

## 2. 使用データと分析方法

### \* 分析対象とする基礎データ

- ・ 中華人民共和国の名目GDP推移グラフ
- ・ キューバの名目GDP推移グラフ

### \* 分析方法

#### 「中華人民共和国」

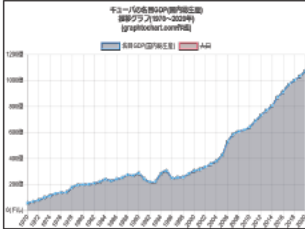
⇒ GDP推移グラフを基本的な比較対象とし、その急速な経済発展に貢献したと考えられる項目、あるいは関係性の見える項目（例：電気使用量や農地の割合）や、中国の成長戦略の出現を示している項目とで比較して考察する。

#### 「キューバ」

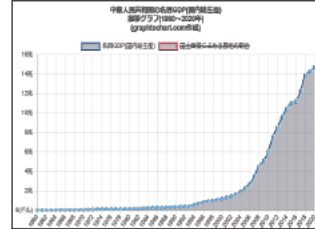
⇒ 独自の経済発展を遂げてきたキューバはどのような方法で経済力を高めていったのか、中国と同様の方法で考察する。

### \* 基礎データ

#### 1. キューバ



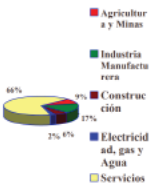
#### 2. 中華人民共和国



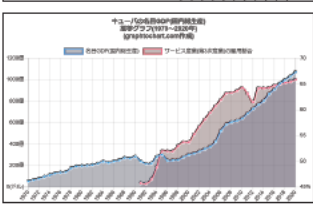
## 3. 分析結果（キューバ）

\* 1990年ソ連崩壊まではサトウキビ栽培を中心とする**農業国**であったが、現在では主に**在外キューバ人の送金**が経済を支えている。

### グラフA：2003年GDP構成



かつての農業国はソ連崩壊とともに変化し(2003年時で9%)、産業構造変更後は**純資本形成も順調**に進んでいる。  
⇒ アメリカとの外交問題はキューバの経済に大きく響く**バイデンVSトランプ**



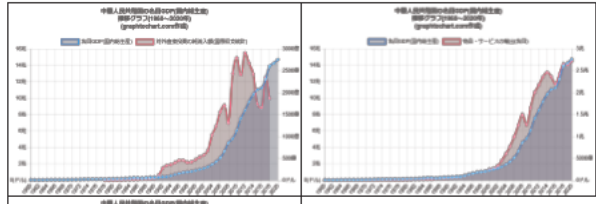
\* 現代キューバ：「**ソフトパワー**」を活用した独自路線・観光業やサービス業、「**人材の輸出**」を基軸とした成長戦略。  
年間、**35,000人**以上がラテンアメリカで**外貨**を獲得  
⇒ 2008～2018年までで**仕送り総額は「300億\$」**（スペイン「EFF通信」）

### 参考文献

\* 中兼 和津次「空想から現実へ—マルクス、レーニン、スターリン、毛沢東、鄧小平に見られる社会主義像の変遷—」比較経済研究 55(2), 2 85-2 98, 2018 比較経済体制学会 NII論文ID: 130007492624 \* 卫 娣「国の外資導入政策と技術移転戦略の展開」経済学論叢 66(2), 393-424, 2014-09 同志社大学経済学会 NII論文ID: 120006880823 \* 貴家 勝宏「中国の「一帯一路」と日米の「インド太平洋」戦略：中国の台頭と国際経済秩序の変容」東海大学紀要、教養学部 = Journal of the School of Humanities and Culture, Tokai University 48, 259-269, 2017 東海大学教養学部 NII論文ID: 120006465891 \* オマル・エベルネ・ペレス・ピニャヌエバ 新藤通弘訳「21世紀におけるキューバ経済-前進と挑戦」キューバ経済研究所 \* GraphToChart. 「中華人民共和国の名目GDP(国内総生産)(推移と比較グラフ)」. 最終更新:2021-12-18. <https://graphtochart.com/economy/china-gdp-current.php> (参照日時:2022-01-26) \* GraphToChart. 「キューバの名目GDP(国内総生産)(推移と比較グラフ)」. 最終更新:2021-12-18. <https://graphtochart.com/economy/cuba-gdp-current.php> (参照日時:2022-01-26)

## 4. 分析結果（中国の成長）

\* 毛沢東により取り入れられた社会主義だが、**鄧小平**による**国家資本主義政策**の展開により「**市場化**」「**私有制**」「**改革開放**」を取り入れる。



(左図) GDPの成長に対し強い相関が見られる三項目。  
1. 対外投資流入  
2. 輸出量  
3. 企業の私営化



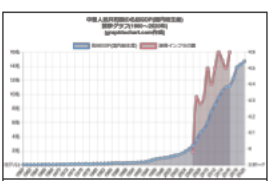
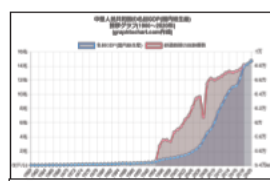
1978年の改革開放政策以降、低水準での成長を続けてきていたが、**2004-2014**にかけて**急激な伸び**を確認できる。  
理由：**2001年12月の中国のWTOへの正式加盟**  
・ 3年以内の貿易自由化  
・ 2005年までの輸入割当の原則撤廃  
・ **関税の引き下げ** 等々、**国際的な市場開放**

### \* 国家社会主義（国家資本主義）の意義とは？

⇒ かつて**毛沢東**が理想とした**共産主義像**（市場や分業の廃止）  
V.S. **鄧小平**の現実路線の開放政策（**資本主義**）  
：獲得した権力と、それによって**立つ党・政党こそ「社会主義」**（中兼2018）  
・ 市場化の結果、共産思想の中で死滅を望まれた「**国家**」はそのままに、理想主義的な「**精神主義**」が「**物質・金銭崇拜**」にとって代わられた。

## 5. 分析結果（中国の戦略）

**一帯一路戦略**：2013年に中国が「**社会主義現代化強国**」を掲げ提唱した政策。「**シルクロード経済ベルト**」「**海上シルクロード**」を軸に、強大なアジア市場の主導的地位を目指す。



⇒ どちらのインフラ整備も**2006-2008年**で急激な変化を見せる。  
理由：  
・ 2008年の北京オリンピックを見据えた開発。その後**海上運輸**に転用。  
\* 中国は2015年、**57カ国**のメンバーと共に「**AIB**」(国際開発金融機関)を設立。  
議決権の**1/4**を保有し、**アジア最大の金融機関**を利用した経済圏へと発展。

「**シルクロード経済ベルト**」：  
中央アジア～オランダを見据えた陸路。インフラの整備とともに**内陸地域**の発展にも着手。**資源エネルギー**の供給確保の狙いが強くみられる。

「**海上シルクロード**」：  
福建～南シナ海～インド洋～スエズ運河～オランダを見据えた海路。資本主義国家中心の「**TPP**」を塗り替えようとする意図が見られる。

☆ **新中国经济圏**と関係諸国の「**一帯一路**」戦略 V.S. **資本主義圏「TPP」**と日米「**インド太平洋戦略**」

将来：アメリカの相対的国力の低下（中国やアジア諸国の台頭）  
⇒ 中国による**新秩序**を防ぐため、**民主主義的**で**自由な秩序の維持**を徹底する必要  
「**TPP**」：世界経済の**38%**、貿易の**30%**を占める強大な経済圏。  
「**インド太平洋**」：戦略的重要地域。エネルギー輸送路や領土・了解問題、不法移民やテロの防止の観点から、**中国との覇権争いの激化**が予想される。

## 6. まとめ

\* **市場経済の導入**により発展を遂げた社会主義国家「**中華人民共和国**」と「**キューバ共和国**」だが、各国それぞれの思惑とともに独自の路線展開をしていた一方、その成長時期には必ず**ターニングポイント**があった。

それは、「**イデオロギー対立の終着**」や「**革命**」、「**オリンピック**」や「**体制への加盟**」といった国家指針を揺らがす社会変動が、自由市場を社会の基盤に据える資本主義国家ではもちろんのこと、**経済をコントロール**されている**社会主義国家**においても大きな意味を持っていた。・・・ということである。

「**キューバ**」は**市場の波にのまれ**、2022年現在、**経済自由化**を進めている一方で、「**中国**」は**社会主義**という構造は保ったまま、力を蓄え**新秩序の形成**に動いている。

○ ここに、共産思想の終着点が見えてくるかもしれない。  
：“**レーニン**はあくまでも**一時的手段として市場**を認めていたと理解すべきだろう“（中兼2018）

⇒ 市場や分業の撤廃を望み、**食料や衣料の無償提供**を実現するのならば、**全人民を支えることができるほどのモノ**を蓄える必要がある。  
「**労働に応じた分配**」⇒「**必要（欲望）に応じた分配**」  
が中国の急成長により実現するときがくれば、**マルクス**が予言する「**美しい牧歌的社会**」が**理想から現実**になるかもしれない。

